



自然観察

No.111
2014.9月

目次

・全道研修会報告	2
・「第25回滝野の自然に親しむ集い」実施報告	5
・誰にでもできる観察会(3)	6
・フィールドニュース	8
・ウォッチングレポート	9
・参加者の声	11
・投稿	14
・ウォッチングプラン	14
・事務局だより・連絡先	16



アケボノソウの花びらにある蜜腺からでる蜜をなめるホソヒラタアブ
野幌森林公園 9月

全道研修 開催報告～火山と原生林、丘の自然を歩く～

山本 牧(旭川市)

今年の全道研修会は6月14-15日の1泊2日、美瑛町と旭川市で行われました。主管は観察協議会旭川チーム。参加は34人でした。

旭川チームにとっては初めての担当。場所選びからけっこう頭をひねりました。道北の海岸や湿原が候補に挙がる中で、火山地形と巨木の森が特徴的な美瑛・白金温泉地区を中心に、メンバーのホームグラウンドである北瑛古道（ほくえいこどう）と旭川・嵐山を歩いてもらうことにしました。

美瑛と言えば丘のまち。観光地として有名です。大勢の観光客が集まる、そのすぐ近くに、意外に知られていない奥深い自然があります。バス移動の時間を最小限にするため、見どころを絞り、多様な自然をできるだけ歩いてもらおうと設定したのが、以下の日程です。

■研修会日程

《14日》

- 8:00 札幌駅をバス出発。美瑛町白金温泉へ。
- 11:15 十勝岳防災センターで旭川チームと合流（見学、トイレ）
- 12:00 徒歩で白金温泉中心部へ。（286階段下り、白鬚の滝経由）
バスで望岳台へ。昼食。溶岩地帯散策。
- 14:00 バスで小松原原生林へ。アカエゾマツ原生林、美瑛川沿い散策。
- 16:20 大雪青少年交流の家へ。入浴、夜まで懇親会。

《15日》

- 5:00～7:00 探鳥会（せせらぎの道）自由参加。
- 8:30 バス乗車、出発。
- 8:40 青池（人工の水たまり）、バスから美瑛の丘見学。
- 10:00 北瑛古道（フットパス）散策。
- 12:00 旭川・嵐山ビジターセンターで昼食弁当。嵐山原生林散策。
- 15:00 嵐山頂上駐車場でバス乗車。プログラム終了
- 15:00 過ぎ

自然観察 111号(2)

旭川鷹栖インターから札幌へ。JR札幌駅で解散。

■十勝岳

十勝岳は記録にあるだけでも、安政（1857年）、大正（1926年）、昭和（1962年）、平成（1988-89年）と大小の噴火を繰り返し、深刻な被害を生んでいます。泥流や火砕流、溶岩が何度も流れ、破壊と再生の歴史が、複雑な森林環境をつくりました。不毛のような溶岩流の中にもダケカンバやヤナギ類が生え、そのすぐとなりには見事なアカエゾマツが林立しています。

最初の見学地、十勝岳防災センターは白金温泉の対岸高台にあり、噴火の際は避難先となる施設です。広々とした白金模範牧場の一角で、天気がよければ大雪連山が一望できますが、この日は薄曇りの中の残雪山景色でした。ジオラマで十勝連峰の全体をつかみ、赤外線センサーや火山石の展示に見入りました。

ここから白金温泉までは286段のシェルター付き階段を下り、美瑛川の鉄橋を渡ります。白金温泉は泥流や火砕流の危険地帯にあり、有事にはこの階段を観光客らが駆け上るのです。鉄



十勝岳望岳台の高山帯植生を歩く

橋からは眼下に青い水的美瑛川が流れ、溶岩層からしみ出す白鬚の滝と残雪の山腹のコントラストに歓声が上がりました。

望岳台は十勝岳登山口で、一般車が上れる終点です。白金を熟知したプロガイド、小倉博昭

さんに案内をお願いしました。壊れそうな木橋を渡ると、溶岩の上に樹木と高山植物が茂る不思議な世界でした。ツガザクラやチングルマが咲き乱れる展望ロックガーデンのような場所や、背丈より高いハイマツをくぐり、いつの間にか出発点に戻りました。

■小松原原生林

荒々しい溶岩帯のすぐとなりに、樹齢数百年の巨木が立ち並ぶ小松原原生林があります。樹高30mを超すアカエゾマツやドロノキ、ミズナラなどが並び、人間が小さく見える暗い森です。車で簡単にアクセスできるのに、なぜか人が少ない森歩きの穴場です。

数年前の台風で、巨木の一部はへし折れ、なぎ倒され、自然の力を感じさせます。朽ちた倒木の上に幼樹が一行に育っています。運のいい人は、クマガラの声を聞くことができました。

車道を渡ると美瑛川沿いの散策路です。樹林の中を何本もの溪流が流れ、雨上がりの緑が鮮やかでした。ランの仲間や樹下に咲く小さな花が印象的でした。

美瑛川の水が青いのは、火山性の微粒子が水に含まれ、青い光スペクトルを散乱させるほか、硫黄分が川底に沈着して、白い反射板の役割も果たすのだそうです。

■大雪青少年交流の家（ゆーすぴあ大雪）

宿泊は昔で言う国立少年の家。温泉付きで格安ですが、ガイドンス出席や行動時間などの制約があります。施設側に配慮して頂き、別室での懇親会や早朝の探鳥会が可能になりました。

懇親会の食事はとても好評でした。民間の業者さんが食堂を運営しており、質・量とも十分。少し寒かったせいか、ビールの消費はそれほどでもありませんでした。

■早朝探鳥会

驚いたことに、ほとんどの方が5時に起きて参加しました。雨上がりなので、それほど多くの野鳥は出てきませんでしたが、朝の散策としては十分。クマ出没との情報を聞きながら、クマガラの食痕、シカの角とぎ跡などが見つかりました。

■青池と丘の道

青池はルートに入れるかどうかで議論になった場所です。美瑛川の防災工事の際、流れの迂回路として人工的に設けられ、独特の水の色や水没した人工林の景色が人気となりました。池の流れ出しには土嚢が積んであります。

テレビで紹介され、付近は時々渋滞が起きます。この日もドライブで立ち寄る軽装の人が目

立ちました。人の姿がまれな小松原原生林とは対照的です。お手軽できれいな自然が売り物になる世の中ですね。木が枯れ、せき止めが古くなったとき、この「観光地」はどうなるのでしょうか。

美瑛の丘は、人為的とは言っても、ゆるい丘陵地形を人が耕し、収穫近い小麦やジャガイモの花、緑のビートなど、色彩豊かな大地のうねりに変えています。セブンスターの木など、観光スポットも横目で見ながら、バスは丘を巡りました。

■北瑛古道

美瑛在住のメンバー、堀内重夫さんが私有地の森林を手入れして開いたフットパスです。もともとは開拓に入った人たちが、辺別川（べべ



川沿いのフットパス 北瑛古道観察会

つがわ)を渡って対岸の千代ヶ岡に出るための通り道だったとか。今も吊り橋の基礎が残っています。

急な段丘は美瑛軟石の素材となる火山生成岩が壁になり、水が湧き出しています。広々した丘の景色が、フットパスに入ると、一転して複雑な地形と植生に変わります。何気ない丘の陰の自然の豊かさに、一同驚かされました。沢



丘の陰の森と沢を歩く北瑛古道 岩盤を流れる水が気持ちいい

底は岩盤になり、ひんやりと涼しい空気が流れていました。

■嵐山

旭川チームの主管なので、自分たちの観察フィールドを見てもらおうと、嵐山の原生林を最後に歩きました。日本初の民間ビジターセンター、嵐山ビジターセンターで一服した後、開拓前の姿を残す大木の森を歩きます。嵐山は近文アイヌコタンの聖地として大事にされ、市街地に近いのに原生環境が残りました。

神居古潭変成岩帯なので、赤や緑系の岩が目立ち、ウマノスズクサ群落やカシワの純林など、ちょっと変わった植生があります。山頂の展望所から旭川市街を流れる石狩川のうねりを眺

め、プログラムは終了。それまで待っていてくれた空も、雨模様となりました。札幌組は頂上駐車場からバスに乗り、札幌駅へ。

歩く時間が多く、少しハードな日程でしたが、十勝岳と上川盆地の自然を楽しんでいただけたら幸いです。下見や資料づくり、交渉など、準備に忙しかった旭川チームのメンバーも、皆さんの笑顔を見て安心しました。

■担当

現地案内：堀内重夫、柳田和美、山本牧

渉外：原部剛

会計・総務：柳田弘子、松田章子、鈴木悠太

自然観察会から

恵庭市 山内 優子

- ・今回は美瑛・旭川の林を中心に美瑛白金・十勝岳防災センター・砂防ダム・シェルターなどもりだくさんの内容でした。
 - ・十勝岳は何度も爆発を繰り返し、泥流が流れ地元の人々は被害を受けています。
 - ・植物を見ても最近泥流がながれたところは、植物の高さは1~2m位、それより上方に行くと大小様々の黒い岩石があり異様な雰囲気でした。
 - ・その黒い世界に緑色の植物たちは、たくましく葉を伸ばし花をつけしっかり生きています。土壌は私の目からも痩せているというのが見て取れ、岩が砕かれたものばかりで養分らしいものは見られませんでした。植生は薄紫色のイワブクロウ、白い可憐なイソツツジ、イタドリ、1m位の灌木・・・他・・・
 - ・そこから林の中へ入っていくとふつうの林の高さではなく、木の下をくぐって歩きました。岩石の隙間や2~3mの広さにイソツツジが白く咲いていました。ハイマツがボー。ボサボサと1m位に突っ立っていました。頭をよぎるハイマツとは相当なずれがあります。大雪が一瞬のうちに降り、強風に当たらないのでボーと立っているそうです。
 - ・大きな溶岩の上に2~3mのアカエゾマツが盆栽を大きくしたようにこじんまりと立っています。立ち姿はバランスがよくとても美しい。周りを見ると！ある！姿の美しいアカエゾマツが自分の場所はここだよ・・・と呼んでいました。
 - ・もう一つ私の目をひいたのは、白樺道路の両サイドと青池の帰り道、白樺とカラマツの幼樹でした。
 - ・細い白樺・カラマツの幼樹が周りの木と同じ高さまで伸びています・・・???
 - ・自分の体を支えられないほど周りの木々と太陽光を獲得しようと争うなんて・・・樹高は高くなっても太くはなりません、だから何本もしなっていました。このようにして自然淘汰されていく？
 - ・太陽光が自然淘汰の要因の一つであることは知っていましたが、このような姿には驚きました。
 - ・森の始まりから安定した原生林まで色々な姿を見せてもらいました。それぞれに見どころがあり、生えている木の種類も違い楽しいひと時でした。特に、十勝岳の裾野の林、鳥の鳴き声、野草の花々、きれいな水の流れ、これらを見ていると火山の泥流で流され再生した森というのを忘れてしまいました。
 - ・自然の世界も命がけの戦いが行われていて、勝ったものが残り全体のバランスを保っているということでした。
- 大変お世話になり有難うございました。次回皆様にお会いできるのを楽しみにしています。

第 25 回 滝野の自然に親しむ集い実施報告

実行委員事務・会計係 池田政明

今年は、「北海道 e - 水（イーミズ）プロジェクト」の助成を受けての開催となりました。8月9日（土）、10日（日）1泊2日の日程で、お盆にもかかわらず一般参加の5家族11名（リピーター4家族）と、指導員6名少数精鋭で滝野の集いとなりました。

今年の特徴は、参加家族のうちリピーターが4家族を占めました。その中でも1家族は3年連続で、初参加は1家族でした。前日から、危ぶまれた天気も回復して素晴らしい滝野の自然に親しむ集いとなりました。

1日目のせせらぎウオッチング・はんごう飯のポークカレー・夜の集い・星空ウオッチング・ナイトハイク、2日目の朝の集い・自然観察ハイキング・ビンゴを精力的に進めていきました。

前日の雨による水嵩の影響もなく、特にせせらぎウオッチングは、ベストコンディションで、子供たちは、ニジマスの大物を捕まえて大好評でした。

指導員は会を盛り上げるために、キャンプファイヤーでは飛んだり跳ねたり、歌やゲー



全員集合で記念写真



はんごう飯炊きに挑戦



楽しかったキャンプファイヤー

ムに頑張りました。参加された家族とも交流を深め、楽しく過ごすことができた集いでした。大人・子供たちのアンケート調査では、5家族全員が来年もぜひ参加したいとの回答でした。実行委員の反省会を踏まえて、次年度は1家族でも多くの参加者が集う、滝野の自然に親しむ集いにしたいと思います。

鳥の鳴き声で優しい気持ちに ～滝野の自然に親しむ集いに参加して～

札幌市 亀山 寧々(小2)

わたしは、鳥の鳴き声が好きです。なぜかと言うと、すずのようなきれいな鳴き声を聞くとやさしい気持ちになれるからです。去年さんかした時は、鳥があまりいなかったけれど、今年こそは、ぜったいに鳥を見つけるぞ！という気持ちでしゅっぱつしました。

まず一日目は川のかんさつに行きました。わたしはとれなかったけれど、先生が、カジカの赤ちゃんを、3びきくれました。川の水はきれいで、冷たかったです。お父さんといっしょに、上流までいったけれど魚は、一匹もとれませんでした。

夕方には、カレーを作りをしました。まきをわったり、野菜を切ったりしました。出来上がったカレーは、とろとろで、おいしかったです。キャンプファイヤーでは、たき火に火をつけるエンジェルの役をやることができました。

二日目は、いよいよ自然観察ハイキングです。森の中を歩いていくと、さいしょは鳴き声が聞こえなかったから、鳥はいないのかなと思いました。だけど、おくに行くと、シジュウカラがチョコチョコジーと鳴いていました。その鳴き声は、すずのようなきれいな鳴き声でした。お父さんがシジュウカラを見つけてくれました。すぐとんでいったけれど、小さくてかわかったです。そして、アカゲラの親子も見ました。人が見ていると思うと、木のうらにかくれてしまいます。そうがんきょうで見たら、頭の方が赤いからアカゲラというんだそうです。

わたしがすんでいるところでは、カラス、ハト、スズメぐらいしか見ることができません。けれども、すこし山おくに行くと、木や川があつて、シジュウカラ、アカゲラ、ウグイスなどがいることがわかり、とてもうれしかったです。またいろいろな鳥に会うために、自然がたくさんあるところに行きたいです。



誰にでもできる観察会

～「不思議」と「すごい」を感じることから始まる自然の観察～(3)

北海道自然観察協議会会長 横山 武彦

自然とのふれあいは五感で

自然とのふれあいは観察会だけではありませんが、そこで気付いてほしいこと、体験してほしいこと、知ってほしいことはいろいろあるのではないのでしょうか。特に子どもたちには感性が育まれるような体験をしてほしいものです。そのなかで、気付きから感じた不思議や驚き、感動は生きものの命・共生・生物の多様性などを知る喜びに発展していきます。

(1) 五感で捕える自然

森の中に入ると、外とは何か違うとい自然観察111号(6)と思います。森の中は光、温度、音、風の流れなどが外とは違いますが、どのように違うのでしょうか。それはどのようなことから来るのでしょうか。

五感の一つ、視覚では光を明るさと色合いで感じます。森の外側から入る光は林冠の葉から順に吸収されたり、反射された残りの光が林内に入りますので、光量は少なくなるため林床に近づくほど暗くなります。林内でも物を見る時に林外で見た時と違った色になって見えることに気が付きませんか。太陽から来る光には紫から赤までの色を感じる光が緑色が最も強い光量ですが、葉の中のクロロフィルが赤と青の光を多く吸収するために吸収されなかった緑の多い光が反射光や透過光となるため、葉は緑に、林内では物が赤や青の抜けた緑っぽい色合いに見えるのです。

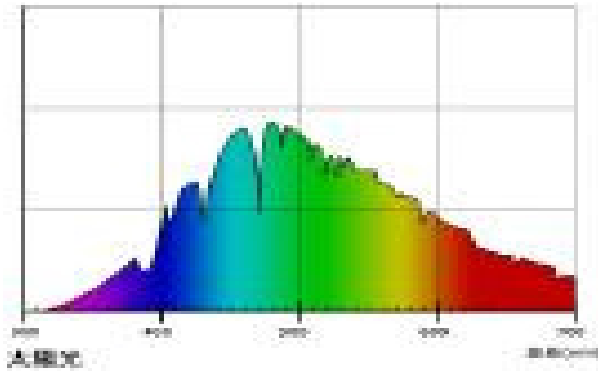
秋の紅葉の色は赤や黄色の光を反射や透過しているからですが、これは寒くなると、緑の葉にあった色素(クロロフィル)が分解されてなくなり、濃い緑色で目立たなかった黄色い色(キサントフィルやカロテンなどのカロチノイド系色素による)が目立つようになってきたこと、糖から赤い色素(アントシアニン)がつくられるようになったためです。

森の中に樹木の生えていない空間(ギャップ)があると、そこだけは直接太陽光が地面を照らしますので内部との違いがよくわかります。衣服や肌の色ギャップのところと林内で比較すると、光の強さを明るさと暖かさ、色合いの違いを体感できます。ここで、光の強さや暖かさは赤外線や紫外線によるもので、視覚ではなく皮膚感覚として感じます。

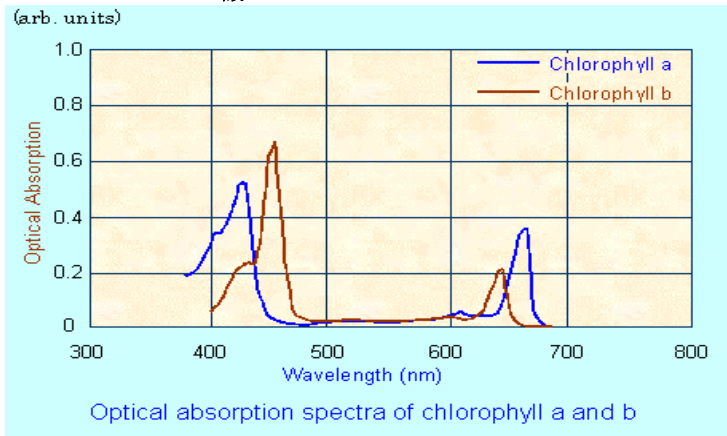
匂いは嗅覚で感じます。匂いの素の物質は空気中に浮遊した分子が鼻の嗅細胞を刺激することで感じることができます。雨上がりの森では土から生じる匂いが強く感じられます。その多くは、腐葉土や小動物、土壌細菌や菌類(カビやキノコ類)により作り出されたものです。森や街に漂うよい香りには、ニセアカシア、ホオノキなどの花の芳香があります。初夏に咲くニセアカシアの白い花からはロビニン(フラボノール配糖体)、秋のカツラ(桂)の黄色い葉から生じるカラメルのは糖の分解物(2-アセチル-3-ヒドロキシフラン、3-ヒドロキシ-2-メチル-4-ピロンなど)が匂いの素と言われます。木や草の葉から発散される匂いもあります。その匂い(臭気)は虫などに訪花を促すものや、反対に忌避させる働きを持つものが多くみられます。

五感を使つての体験で特に気をつけたいことは、刺や刺毛の有無やかぶれを起こさないなど手で触れて安全か、木や草の実を口に入れて味わうとき、その実に毒性が無いこと、かぶれなどを起こさないものであることなどを確認しておくことです。

耳で聴く自然の中の音には、野鳥のさえずりや虫や動物の鳴き声があります。静かにその場にたたずんで耳を澄ますとそれまで聞こえなかったような音の世界に出会えます。ここでは、風が草葉を揺らし樹々の梢を吹き抜ける音とともに、遠くの街や車の騒音、風力発電の羽根が回る音が聞こえ、



「太陽光のスペクトル」



「クロロフィルの吸収スペクトル」



ホオノキの花

うなるような響きなども体感できるかもしれません。

五感で自然に触れることは、自然の観察には欠かせませんが、自然の中に身を置くことだけでも癒しとリフレッシュをもたらしてくれます。

フィールドニュース

FieldNews

東部緑地の川沿いの林を歩き続けて

札幌市 三浦 さち子

フィールドワークと言うより大好きな散歩です。

毎朝 近くの東部緑地という川沿いの林を歩いています。ブログで始めたカメラを持っていつもの道を歩きます。もう 6~7 年も続けているでしょうか。初めは週 2~3 回でしたが慣れてくると、毎日歩くようになりました。毎日歩くと木々の芽吹きやその花を見て、木の名前が分かるようになります。

春は雪解けのミズバショウから始まりエゾノリュウキンカ、オオバナノエンレイソウなどの野草や木の花が次々と咲き、全てを写真に撮れないほど一斉に咲きます。気温の変化も激しいので春はメチャクチャに疲れます。楽しい疲れです。

木々や道端の草はどんどん茂りひと月もすると別の森??の変わりようにいつも驚かされます。

野鳥好きの人達に感化され、会うたびに鳥に興味を惹かれます。虫は子供が小さい頃、見せるために必死で掴めるようにしましたから、ヘビなども平気になりました。

平岡公園を歩いていて「ツリーウォッチン



グ」がある
と知り参加して、主催の「平岡公園ドングリの森の会」に入会しました。今まで一人で歩

オニヤンマの脱皮

いていたので、沢山の人は初めてでした。

野鳥・木・野草などそれぞれに詳しく、自分よりも自然が大好きな人が沢山いるのに驚きました。月に 4~6 回平岡公園で集いがあり、まずは全部に参加して 1 年間何をしているのか知りました。

それからはず~っとドングリになり、もうドングリから離れられなくなりました。素晴らしい仲間巡りに巡り合えて毎日が変わりました。鳥や木や昆虫の図鑑をひいて、もう全て野鳥や虫の話です。

小中学生を対象に「小さな自然観察クラブ」に取り組んで

名寄市 金田 卓浩

私は、名寄市北国博物館に勤務、道北自然観察指導員会に所属し、活動を続けております。この会の主な活動は、毎月第 2 土曜日に市内の小中学生と身近な自然に出かけ活動する「小さな自然観察クラブ」です。昨年も松山湿原での野草観察、滝めぐり、ヤマベ釣

りなどを行い、多くの自然に触れてきました。初めての釣りや登山を行う子も多く、新鮮な反応に指導員たちも嬉しくなります。昨年とくに印象深かったのは、ニホンザリガニ探しです。以前は沢にたくさんいましたが、現在はほとんど見るができなくなりました。



子供たちも簡単に見つかるものだと思います
探し始めましたが、見つけたのは約2時間で
2匹。はからずも絶滅危惧種になっているニ

ホンザリガニの現状を知ることになりました。
観察後はもっと増えることを願い沢に戻
してあげました。

クラブでは、毎年2回の親子行事も行っ
ています。初夏には名寄の最高峰ピヤシリ山へ
の登山、秋の野外料理ではダッチオープン
を使ったスタッフドチキンに挑戦しました。

親子の絆づくりに一役買っているこの企
画、私も娘3人をクラブに参加させ、親子コ
ミュニケーションに利用させてもらって
います。

少し足を踏み出すと雄大な自然が広がる
この道北の地で、今後もこの財産を子供達に
伝えていくため活動していきます。

ウオッチングレポート



札幌市北区 「百合が原公園」 2014/4/20

天候 晴れ

都市の中の造成公園「百合が原公園」の 北方系の花と鳥たち

昭和 58 年に農家の跡地から生まれ変わった
公園の今日は、観察会日和の1日でした。鳥は
トビ、ノスリ、アカゲラ、マガモ、キジバト、アオ

ジ、キレンジャク、シジュウカラ、ハシブトガ
ラ、ヤマガラ、ヒガラ、ヒヨドリ、カワラヒワ、イ
スカ、ハシブトガラス、ハシボソガラス、マヒワ
など17種類を観察しました。チオノドクサ、キ
バナセツブンソウ、原種シクラメン、シナマン
サク、クリスマスローズなどの外来種の花やハ
ルニレの花を観ました。

(須田 節)

札幌市北区 「春の北大構内」 2014/4/27

天候 晴れ

春の北大構内 一原始林～遺跡保存庭園～

この日は 20℃以上の暖かい日となりました。
豊平川の扇状地の末端であった北大構内は、平
らで誰もが歩きやすい場所です。シラカンバ、
カツラ、マンサク、キタコブシ、ヤチダモ、ハ

ルニレ、ポプラ、オノエヤナギ、ネグンドカエ
デ、エゾムラサキツツジ、キクザキイチゲ、キ
クバオウレン、フキタンポポ、ニオイスマレ、
エゾエンゴサク、カタクリ、キバナノアマナ、
アズマイチゲ、ミズバショウ、アキタブキなど
春の花を観ました。遺跡保存庭園の住居跡の30
カ所あるといわれているくぼみは、年々分り難
くなっています。

(須田 節)

恵庭市 「恵庭公園」 2014/5/10

天候 曇りのち晴れ
掲載紙 新聞各社、広報等

春の緑につつまれて

本日は少々風はありましたが天候もよく、観察会日和となりました。

恵庭公園はエゾエンゴサクが花の盛りで、ニリンソウも5分咲きとなり、去年とは大違いで皆さんに大いに花を楽しんでいただけたと思います。

特にミドリニリンソウ探しでは、かわいい花を探しては、わいわいみんなで楽しく観察することができました。

観察会としては人数が多かったので、3班にわかれて観察会を行いました。

私とご一緒した皆さんは、色々積極的に参加してくださり、エゾエンゴサクの受粉の話、木の樹皮の話やシカの食害の話、水生昆虫の話や川と周りの木々とのつながりの話など、興味深そうに観察し、聞いてくださいました。

参加者側からの質問や、見つけてくれたものなどから話も広がり有意義な時間をすごせたと思います。

春の素敵な1日となりました。

(林 祐子)

旭川市 「旭山公園」 2014/5/10

桜満開

旭山公園の桜の見頃と観察会が重なりました。集合8時半、桜の下からスタート。春植物のカタクリ・エゾエンゴサクのほか、ニリンソウ・ヒトリシズカも開花し、9時からは旭山動物園も開園。

今回のコース前半、テナガザルの吠え声等を聞きながらの珍しいスタート。旭山動物園勤務の自然観察指導員もいて、声の主がわかった次第だが、それまでホエザルの声と思っていた地元の私であった。その他の哺乳類の声も聞こえ、コースの一部では野鳥の声以上に大きく響き渡るので印象に残ります。

コース中頃、天気もまずまず、気温も少しず

つ上がり、頂上の電波塔に着いた休憩時は衣服を1枚脱ぐほどでした。

多くのコース設定が可能です。市民には遊歩道の存在を知らない方も多かったです。他シーズンもコース設定はいろいろできそうです。

コース後半、昭和30年代にあったと云う植物園の遺失植物（イカリソウ＝旭川には自生せず）等があり驚きました。

カタクリ群落のピークは過ぎていましたが、名残は十分見ることができました。

(柳田 和美)

札幌市北区 「屯田防風林」 2014/5/11

天候：快晴

東遊水地周辺の野鳥や屯田防風林オオバナノエンレイソウ群落の開花を観察しよう！

快晴の中、遊水地へ、水辺にはバン、アオサギ、ヒドリガモ、ヨシガモ、カルガモ、マガモ、オオセグロカモメ、草原にはウグイス、イソシギ、ハクセキレイ、トビ、ヒバリ、スズメ、ハシボソガラス、ノビタキ、ムクドリ等が見られました。

雪虫研究者より発寒川の橋では、川辺から伸びたヤチダモの枝先（若芽）に産卵する雪虫と共生するアリを観察。屯田防風林では、オオバナノエンレイソウ群落の開花を観察しました。

アイヌ文化アドバイザーより、遊水池で採集したヒシの実とキハダの実団子を試食、民芸楽

器トンコリの演奏、身近なアイヌ語イランカラプテ（おはよう・こんにちは・こんばんは）、イヤイライケレ（ありがとう）など、アイヌ文化の一端を学び体験することができました。

（池田 政明）

小樽市 「オタネ浜」 2014/6/21

天候 うす曇

オタネ浜海岸を歩く

うす曇の中、一般参加者4人に対して指導員が5人も付くという豪華な(?)観察会となった。

主任指導員から、当地が大都市近郊に奇跡的に残った貴重な自然海岸であることと小樽市の発祥の地にもなった由緒ある地区(オタルナイ)でもあることに留意して欲しいという説明が行われた。

スタート直後、近年観察することが中々、難しいスナビキソウを発見。一同大喜びして写真に収めたがその後、もう一箇所でも発見。しかしこちらの方は、近年、外来 帰化植物として猛烈にはびこり始めたオニハマダイコンにすっかり囲まれた状態だった。

汀、砂浜を経て砂丘地帯の海浜植物が繁茂しているゾーンに移ったが、今が盛りのハマナスの開花が意外に少ないのに対してハマヒルガオがピンクの群落を作って咲き誇っていた。

ここではバギー車が貴重な海浜植物を抉って強引に付けた道路に一同、啞然とするとともに怒りも込み上げた。同時にその深く削り取られた道路の断面を観察すると、ハマナスが長い



スナビキソウ

細かな根を必死になって地中深く伸ばしているのが見られたなど改めてこれら海浜植物たちが、根を張ることにより飛砂、流砂防止に貢献していることを認識させられた。

後背湿地の元オタルナイ川跡の沼では、沼形成の経過説明が行われると共に、沼を含めた銭函・石狩海岸に設置が予定されている巨大風力発電計画とその問題点についての説明も行われた。

後背林のカシワ林では、純林規模で全国一との報告を受けた後、森林の中にある古道を散策したが途中、かつて存在したオタルナイ集落(樽川)の状況を示す石碑も見学しながら解散した。(村元 健治)



参加者の声



旭川市「突硝山」(2014/3/23)

旭川市 佛田 敏幸

スノーシューで里山を歩いてみたかったことから参加しました。初めてなので歩き方の説

明から踵を雪面にすりながら歩くことを守った。このスノーシューの歩き方は、ノルディ

ックウオーキングの歩き方ととてもよく合う。



何者かが木屑を散らかして穴を彫る、たくさん

連なっているセミの抜け殻。ここは冬以外は入れない場所だと判った。昔、妻は山を見なが、道が付いていなくても「このままずっと歩いていきたい」と言っていたことを思い出しながら歩きました。

サポーターの皆様、ありがとうございました。
※上記の「何者か」はキツツキのことです。

当別町 「北海道医療大学薬草園」とその周辺(2014/5/10)

札幌市東区 石山優子

当日は、小3の息子と小1の娘、そして2才の末娘を連れ、4人で参加しました。上の子2人は植物観察2割、昆虫5割、遊び3割という感じで、彼らなりの楽しみ方を見つけて散策していた様子です。

周りの方の迷惑にならないか常に気にかかりましたが、快くサポートして頂き大変感謝しています。質問をされたり、一緒に昆虫を探してもらったり、時には誉めてもらったりと、遊びの中で楽しく学ばせて頂きました。そうやっ

て覚えた植物の名前や昆虫は記憶に残っているらしく、帰ってからも、「これは、あの時に見たね。」などと言っています。そういった様子を見ていると、やはり図鑑だけではなく、実際に体験するという事は大事なのだと改めて思います。今後とも、機会があれば参加させて頂きたいと思います。来年は下の子もきっと一人で歩けるので、少しは楽になる事を願っています。

恵庭市 「恵庭公園」(2014/5/10)

恵庭市 谷本 一剛

昨年に引き続き、2回目の参加となりました。昨年は春が遅く木々はまだ芽吹かず花にも少し早い感じがありましたが、今年はさわやかな新緑と多くの草花に迎えられ、昨年とはまた違った恵庭公園を楽しむことができました。

特に感動したのは、エンレイソウが見事だったことです。自宅近くでは単独で咲いていることが多いのですが、恵庭公園では遊歩道近くか

ら一面に群生していて壮観であった上に、間近でじっくり観察することができ、とても満足感がありました。

また、指導員の方々も丁寧に説明して下さり、その知識に驚くと共に、花をより深く楽しむことができました。早くも来春の観察会が楽しみです。

札幌市北区「東屯田川遊水池・屯田防風林」(2014/5/11)

札幌市北区 遠藤 和伸

タンドシリピリカ(今日は良い日だ)

そよ風が心地よい、よく晴れた日曜日に、カ

ラフトアイヌと自己紹介した女性から、イランカラプテなどのアイヌ語やオオウバウリ、キトピロなどの植物とその暮らしの関わりを教えてください、ヒシの実とキハダの実をのせたカボチャとジャガイモのお餅。ナギナタコウジュのお茶までご馳走になる。さらにトンコリを奏しながらアイヌ民謡を聞かせて頂いた。イヤイライケレ(ありがとう)。

キビタキやカワセミ、アカハラを観察できればと期待していたので、少しがっかりした野鳥

観察会だったが、ヤチダモの新芽に隠れたユキムシや、防風林の中のオオバナノエンレイソウの群落などを知ることができた。

アイヌの人々が、野鳥や草花などの自然とどのような関わりを保っていたかについて、学ぶとてもよい観察会だったと思う。

小樽市 「忍路海岸」(2014/7/12)

この度初めて、この会に参加させて頂きました。当日は暑くもなく、海も穏やかで観察するにはとても良い日でした。参加された皆様はとても暖かく、私は初めて参加したという気構える心を持つこともなく、すぐに自然の中に身を置き動物や植物達と向き合うことができました。

今までは草、虫、鳥などを大雑把なつかみで生物を見つめていましたが、各々の虫、小さな野草にも名前があり、しかも人間に権利があるように、これら虫、草、木にも水を得、空気を吸い生きる権利を主張していること

を感じました。

道すがら、エンレイソウの実を初めて見ました。そして食することが可能だということを知りました。

最後に訪れた忍路海岸、岸壁に、あのような貴重な生成物があることを初めて知った次第です。経済の発展のために、道を作り壁を覆ったとしたら、人間の傲慢さ以外の何ものでもないと感じました。

機会がありましたら、また参加したいと思います。

札幌市豊平区 辻 伸枝

札幌市豊平区 「精進川」(2014/7/27)

一日雨という天気予報の中、中の島駅に集まったのは総勢4名。今にも降り出しそうな空の下歩き始める。街の中だというのに、うっそうとした樹林地帯が精進川の両側に広がる。片方が崖になって川に覆いかぶさるように枝が伸びている。この川は、1992年にコンクリートの三面護岸を壊して元の自然の流れに戻したそう。ヨシ、ヌルデ、クサギの花、ヤマグワの実などを観察しながら歩みを進める。

昔、氷を作った氷池、幹周りが3メートルを

超えそうなヤナギやキタコブシの大木を見ながら、外来種をどうして街路樹にするのか、ズミとエゾノコリンゴの違いは等々、話題は豊富だ。西野層という500万年前の貴重な地層があることも教わった。滝の近くでキセキレイの親子と遭遇。

草花の名前を知ると、別の季節に出会った時、違った表情を見せてくれるのでますます興味は尽きない。

札幌市豊平区 寺島 良子

苫小牧市 谷口 勇五郎

5月31日、紋別岳で観察会を行いました。今年は例年より1週間ぐらい遅く、天候の関係で、植物の成長は10日ぐらい進んでいました。ふもとでシラネアオイが見られるはずなのに、まったく見られず、頂上近くで数個咲いているだけでした。オオバキスミレは、ふもとだけでなく、かなり上まで咲いていました。

めったに見られないコウヨウラクツツジの花がところどころにあり、ムラサキヤシオ(ツツジ科)は今まで見たことがなかったのに、中腹より上で、いたるところに咲いておりました。天気に恵まれ、少しかすんでいたものの、眺めはよい状態でした。

帰りに半分くらい下った頃、ツルウメモドキなどの植物の成長戦略についてのガイドが終わった時、相棒のAさんがつる植物の巻き方についてガイドを始めました。「巻き方には右巻き、左巻きがあり、Z巻きS巻きということもある。云々」と。「エッ」とびっくり。ZとかSなどまったく聞いたことがありません。「巻きついたつるの部分が、右上がりにはZの文字の中ほどの部分にあたりZ巻き。左上がりにはSの中ほどの部分でS巻き。Z巻きは右手を握ったとき、小指から人差し指へと上に伸びるので、右巻きになる。云々」。どこかの本で、つる植物の巻き方として、伸びる方向が握った手の親指の向く方向であれば、例えばその手が右手なら、右巻きになると思い込んでいました。Aさんのガイドとは正反対になるのです。

帰宅後調べると、つるの巻き方について、右巻きや左巻きについては、混乱があるとのこと。つるの伸長方向に見るか、上から見るかなど見る方向によっても異なります。Z巻きやS巻きでは混乱しません。Z巻きが右巻きという扱いが多いという。また手を握って「親指の向いた方向の巻き方」と表現すればはっきりするといいます。今回は「何とかの一つ覚え」とつくづく思いました。学ぶことは、いつでも、誰からもあり、しかも底なしですね。



ウォッチングプラン

開催予定日	テーマ	観察地	集合場所・時刻・注意事項	交通機関	連絡先
9/23(祝)	「旭山」観察会 秋の旭山を訪ねよう	旭川市 旭山	旭山動物園正門手前で、右側の駐車場に集合 9:00 集合～12:00 頃解散 小雨決行 親子参加も歓迎	旭川駅前 西武デパート裏の5番乗り場 (旭川電気軌道)40番、46番で所要時間 30～40分 7時台発車のバスでおいで下さい。 車の場合、旭川駅から4条通へ、19丁目交差点を左折10条通りへ行き、直進。	原部 剛 080-6092-4347 FAX 0166-37-2462
10/4(土)	「中野植物園」観察会 13万都市、小樽の私設植物園の秋を巡る (観音像の立つ小山の登山もあります)	小樽市源町 「中野植物園」	「中野植物園」入口 10:00 集合～12:00 解散 入園料200円がかかります	小樽駅前発「梅源線・長橋先回り」で約11分 「中野植物園入口」下車 駐車場もあります	広岡賢治 0134-25-2722

10/12(日)	「秋の錦大沼」 観察会 今年の実は?	苫小牧市 錦大沼 総合公園	錦大沼総合公 園駐車場 8:50集合 9:00~12:00 解散 雨天原則決行・ 強風日中止 雨具、あれば双 眼鏡・ルーペ・ 図鑑など持参	自家用車のみ	佐々木昌 治 0144-67-2 022
10月12 日	「秋の円山公 園」 観察会 木の実と紅葉	札幌市中 央区 円山公園	地下鉄東西線 円山公園駅 1階バス待合所 10:00 集合~ 12:00 解散	地下鉄東西線 円山公園駅下車	山形誠一 011-551-5 481
10月12 日	「街中の自然・ 屯田防風林」観 察会 ③ 秋編 秋の紅葉と木の 実 冬の使者“雪 虫”を観察しよう	札幌市北 区 屯田防風 保健保安 林	屯田西公園グラ ンド駐車場 10:00 集合~ 12:00 解散 雨具、あれば双 眼鏡、図鑑など	地下鉄麻布駅発中央バス「03 麻 生」又は 「03 屯田 6 条 12 丁目行き」、 「屯田西公園」停留所下車徒歩 2 分	澤田八郎 011-762-7 798
10/19(日)	「モエレ沼公園」 観察会 渡り前集結の鳥 たち	札幌市東 区 モエレ沼公 園	モエレ沼公園 東口駐車場 9:40 集合~ 12:00 解散 防寒の用意、あ れば双眼鏡	地下鉄東豊線 環状通東駅 9:10 発市営バス 「札苗 69 番」モエレ沼公園入口 下車	須田 節 011-752-7 217
10/25(土)	「長橋なえぼ公 園」 観察会 晩秋の森 生き物達の冬ご もりの準備を見 る	小樽市 長橋なえぼ 公園	なえぼ公園内 「森の自然館」 前 9:00 集合~ 12:00 解散 防寒具を用意し てください	小樽駅前から ⑧オタモイ線、⑩ 塩谷線、 ⑪余市線 いずれか乗車で約 5 分 「苗圃通り」下車、徒歩自然観察 111 号(15)	日下部 久 0134-24-5 921
10/26(日)	「野幌原始林」 観察会 針広混交林・北 方の林野の姿	北広島市 レクリエー ションの森	レクの森 林間 学園前の広場 10:00 集合~ 12:15 解散 あれば植物図 鑑・雨具・防寒 着 雨天中止・要申 し込み	北広島駅から徒歩 20 分 JR千歳線北広島駅から中央バス 「北広島団地総合体育館行き」 で 5 分、終点下車。徒歩 6 分	塚田真理 子 090-7006- 4404
10月26 日	「晩秋のウトナイ 湖」 ハクチョウ(渡り 鳥)の観察と森 の散策	苫小牧市 ウトナイ湖 周辺	道の駅「ウトナイ 湖」 駐車場 9:40 集合~ 12:00 解散予定	新千歳空港 9:15 発道南バス 「苫小牧駅前行き」乗車 9:33「ウトナイ湖」下車 無料駐車 場有	宮本健市 0123-28-4 720
11/3(祝)	「秋の北大構 内」 観察会 イチョウ並木と エルムの紅葉を 楽しもう	札幌市北 区 北海道大 学構内	北海道大学正 門 10:00 集合~ 12:00 解散	JR 札幌駅北口から徒歩 5 分 地下鉄南北線 さっぽろ駅、北 12 条駅から徒歩 10 分	須田 節 011-752-7 217

会計からのお願い~忘れていませんか、会費の納入!!~

本協議会の活動は、会員の方の会費にて運営されています。今年度まで会費納入がお済でない方は、会費納入をお願いします。今回については、振込用紙を同封しておりません。

前号(14年6月)の送付時に振込用紙を同封していますので、それをお使いください。

なお、納入状況は前号の宛名タグシールに記載されていますので、それをご覧ください。

また納入状況が不明な方は、会計担当までお問い合わせください。

・年度会費は1,500円です(家族会員は2,500円)。

- ・来年度から、年会費は500円値上げされます(個人会員2,000円、家族会員3,000円)。
 - ・来年度分をお支払いになられる方は、お間違いなきようお願いいたします。
- ※退会の申し出があるまでは会員です。退会される方は、今年度までの会費を納入の上、事務局又は会計担当までご連絡願います。

郵便振替口座 02710-1-8768
会計振込加入者名 北海道自然観察協議会会計 三澤英一

《寄付の御礼》

月形町の田代 都喜代様から1,500円寄付を頂きました。ご厚志に感謝申し上げます。



☆去る8月6日に理事会が開かれました。各部からの報告のあと協議が行われました。とくにその中で来年度北海道を会場にして行われるNACS-j指導員講習会開催について、開催場所(開催地区)、開催時期等について協議が行われました。候補としては、旭川、時期としては初夏もしくは秋がよいのではないかということになりました。今後、現地のほうと協議を進めていくことにしています。

もう一つの協議では来年迎える本協議会30周年記念事業の実施についても検討されました。協議の結果、何らかの形で記念事業を行うことで確認されましたが、その内容については、次回の理事会に事務局から提案される事になりました。

☆今月号には投稿として谷口勇五郎様より頂戴しましたものを掲載しております。編集部では投稿歓迎ですので、奮ってご投稿お願い致します。(む)

【連絡先】

北海道自然観察協議会のホームページ <http://www.noc-hokkaido.org/>
 会費や寄付は 郵便振替口座 02710-1-8768
 会計 三澤 英一 北広島市松葉町5丁目9-16
 会費振込加入者名 北海道自然観察協議会 三澤 英一
 観察会保険料は 郵便振替口座 02770-9-34461
 観察会担当会計 小川 祐美 小樽市望洋台3-13-5
 TEL/Fax 0134-51-5216 E-mail streamy@estate.ocn.ne.jp
 観察会報告書・資料は 観察部 山形 誠一 札幌市中央区双子山1丁目12-14
 TEL/Fax 011-551-5481 E-mail seichi.y@jcom.home.ne.jp
 退会、住所変更の連絡は 事務局 池田 政明 札幌市北区麻生町4丁目9-16
 TEL/Fax 011-708-6313 E-mail ecology@cocoa.ocn.ne.jp
 事故発生等緊急時はアスカ・リスクマネジメント 担当 本間氏 TEL 011-873-2655

投稿や原稿は 編集部 村元 健治 札幌市手稲区星置2-8-7-30
 TEL 011-694-5907 E-mail cin55400@rio.odn.ne.jp

表紙写真 森 繁寿



自然観察 2014年9月15日 / 第111号 年4回発行
 (会員の『自然観察』購読料と郵送料は会費に含まれています。)

発行 **北海道自然観察協議会**
 編集 北海道自然観察協議会編集部